

作成日 2016年 5月 13日
改訂日 2024年 4月 1日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : メディプロブリーチ
供給者の会社名称 : ライオンハイジーン株式会社
住所 : 東京都台東区蔵前1-3-28
担当部門 : 企画開発部 研究所
電話番号 : 03-3616-3159
FAX番号 : 03-3616-3208
緊急連絡電話番号 : 03-3616-3159
製品の用途 : 除菌漂白剤
使用上の制限 : 推奨用途以外で使用しない
整理番号 : 2121

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

爆発物 : 区分に該当しない
可燃性ガス : 区分に該当しない
エアゾール : 区分に該当しない
酸化性ガス : 区分に該当しない
高压ガス : 区分に該当しない
引火性液体 : 区分に該当しない
可燃性固体 : 区分に該当しない
自己反応性化学品 : 分類できない
自然発火性液体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない
酸化性液体 : 区分に該当しない
酸化性固体 : 区分に該当しない
有機過酸化物 : 区分に該当しない
金属腐食性化学品 : 区分1
鈍性化爆発物 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない
急性毒性(吸入:気体) : 区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分に該当しない
急性毒性(吸入:粉じん及びミスト) : 区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1A
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
呼吸器感作性 : 区分に該当しない
皮膚感作性 : 区分に該当しない
生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない
発がん性 : 区分に該当しない
生殖毒性 : 区分に該当しない
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分に該当しない
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない
誤えん有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有毒性 短期(急性) : 区分2
水生環境有毒性 長期(慢性) : 区分に該当しない
オゾン層への有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 金属腐食のおそれ

	飲み込むと有害 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 水生生物に毒性
注意書き 一般	: 受診時は、安全データシート(SDS)または商品を持参する。 子供の手の届かない所に保管する。 必ず使用前に「安全データシート(SDS)」と「使用上の注意」をお読みください。
安全対策(予防策)	: 保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。 他の容器に移し替えないこと。 粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 眼、皮膚、衣類に付けないこと。 取扱い後はよく洗うこと。
応急措置(対応策)	: 眼に入った場合、こすらず、直ぐに流水で15分以上洗い流すこと。そのまま放置すると失明の恐れがある。痛みや異常がなくても直ちに医師の診断を受けること。 皮膚に付いた場合、直ちに多量の水で洗い流すこと。必要に応じて医師の診断を受けること。 飲み込んだ場合、無理に吐かせずに、すぐに口をすすぎ、多量の水または牛乳や生卵を飲ませること。意識のない場合は口から何も与えないこと。速やかに医師の診断を受けること。 容器に記載されている応急処置法を見て、対応すること。
保管(貯蔵)	: 直射日光を避け高温の場所に置かないこと。
廃棄	: 内容物/容器を許可を受けた産業廃棄物業者に委託し、関連法規等を順守し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学特性
成分及び濃度

: 漂白剤

化学名	CAS番号	濃度又は濃度範囲(%)	官報公示整理番号(化審法)
次亜塩素酸ナトリウム	7681-52-9	6以上	1-237

4. 応急措置

吸入した場合	: 塩素ガスを吸入した場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、身体を楽にして休息させる。
皮膚に付着した場合	: 直ちに多量の水で洗い流す。必要に応じて医師の診断を受ける。
目に入った場合	: 流水で15分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。この場合清浄な微温湯が容易に得られる時は疼痛を軽減する点で冷水洗浄よりも効果がある。
飲み込んだ場合	: 直ちに口の中を水で洗浄し、多量の水又は牛乳や生卵を飲ませる。意識のない場合は口から何も与えない。無理に吐かせず速やかに医師の診断を受ける。
応急措置をする者の保護	: 救助者は炊事用手袋、保護メガネなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 大量の水による
使ってはならない消火剤	: 酸との接触により有害な塩素ガスを発生するので、炭酸ガス、酸性の粉末消火剤は避ける。
特有の危険有害性	: 情報なし
特有な消火方法	: 周辺火災の処置は次による。 1) 容器を安全な場所へ移動する。 2) 移動不可能な場合は、容器及び周辺に注水して冷却する。
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は、ゴム製保護衣、ゴム製保護手袋、ゴーグル型保護眼鏡、ゴム長靴、空気呼吸器など適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 作業時には必ず保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。
環境に対する注意事項	: 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 漏出源を遮断し、漏れをとめる。 漏れたときは、人体や衣服を損傷するので、触れないように注意しながら多量の水で洗い流す。また容器類は常時点検し、漏れないように努める。酸による中和は、有毒な塩素ガスを発生するのでしてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(局所排気・全体換気等)

安全取扱注意事項

: 貯蔵場所及び取扱い場所の付近には放水設備や洗顔、手洗い装置を設ける。換気の良い場所で取り扱う。

1)キャップを開けるときは、原液が飛び出さないように注意する。

2)重金属などの異物の混入や気温の上昇は分解を促進し、液が噴出する事があるので、注意する。

3)他の容器への詰め替えは、液が漏れないように注意しながら、清浄な専用容器に移す。

4)作業中の換気に注意する。

5)他の洗浄剤との併用は避ける。作業中に温度が上昇したり、pHが低下したり、重金属類の混入した場合、酸素または塩素を放出するので注意する必要がある。

6)希釈する場合は、水を使用し熱水は使用しない。

7)誤って酸と混合したときは、直ちに大量の水で洗い流す。周囲に苛性ソーダ等のアルカリ性物質がある場合には、これを加えてアルカリ性に戻し、塩素ガスの発生を食い止める。大量の塩素ガスが周辺に拡散する恐れあるときには、関係者に連絡するとともに、風上に避難する。

誤って酸と混合した場合は、直ちに苛性ソーダ、消石灰等のアルカリで中和する。

発生した塩素ガスが周辺に拡散する恐れがある場合は関係者に連絡を取ると共に、風上に避難、誘導等の措置を講じる。

接触回避

: 酸性物質と接触すると塩素を発生するので接触させない。

重金属(コバルト、ニッケル、クロム、銅、鉄など)が存在するとそれらが触媒となり、分解を促進するので接触させない。

保管

安全な保管条件(適切な技術対策、及び混触禁止物質との分離)

: 直射日光を避けて冷暗所に保管する。

保管条件(適切な保管条件及び避けるべき保管条件)

: 漏れた場合を仮定し、人的、物的被害を最小限にとどめる場所を選び、定位置で保管する。

長期間保管すると有効塩素が低下する密栓し、直射日光の当たらない場所に保管する。

幼児の手の届かないところに保管する。

酸性物質と混触しないように離しておくこと。

安全な容器包装材料(推奨材料及び不適切材料)

: 製品使用容器に準じる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

: 設定されていない

許容濃度-日本産業衛生学会

: 設定されていない

許容濃度-ACGIH

: 設定されていない

設備対策

: 直接取扱う場所では換気をよくする。なお大量に扱う場合は、局所排気装置や全体排気装置、手洗い設備、洗眼設備を設けることが望ましい。

保護具

呼吸用保護具

: 扱う量によっては呼吸用保護具

手の保護具

: 不浸透性保護手袋

眼の保護具

: 密着型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

: 不浸透性保護衣

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

: 液体

色

: 淡黄色

臭い

: 特有の刺激臭がある。

融点／凝固点

: データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

: データなし

可燃性

: データなし

爆発下限界及び上限界／可燃限界

: データなし

引火点

: 示さず

自然発火点

: データなし

分解温度

: データなし

pH

: 11.9以上

動粘性率

: データなし

溶解度	: 水に可溶
n-オクタノール／水分配係数(log値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 比重(20℃) 約1.072
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸と反応して有害な塩素ガスを発生する。金属に対して強い腐食性がある。
化学的安定性	: 空気、熱、光、金属などに極めて不安定で、放置すると徐々に分解し有効塩素を失う。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: アルミ、銅などの金属との接触
混触危険物質	: アミン類やアンモニアと反応して有害で爆発性の三塩化窒素を発生する。 : 酸との接触やpHの低下により塩素ガスを発生する。
危険有害な分解性生物	: 酸との混合により塩素ガスが発生する。
その他	: なし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: マウス LD ₅₀ 雄;6.8ml/kg 雌;5.8ml/kg (有効塩素10%) 雌;LD ₅₀ :5.8ml/kg(有効塩素10%) 幼児経口致死量;15~30ml(5%液)
急性毒性(経皮)	: データなし
急性毒性(吸入:気体)	: データなし
急性毒性(吸入:蒸気)	: データなし
急性毒性(吸入:粉じん及びミスト)	: データなし
皮膚腐食性／刺激性	: 腐食性があり、皮膚、眼、粘膜を激しく刺激する。 : ミストを吸入すると気道粘膜を刺激し、しわがれ声、咽頭部の灼熱感、疼痛、激しい咳、肺浮腫を生じる。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	: 原液0.1mlを雄ウサギに点眼すると、血液様分泌物の流出、角膜の汚濁、及び結膜・瞬膜の軽度な発赤並びに腫脹などが認められる。
呼吸器感作性又は皮膚刺激性	: データなし
生殖細胞変異原性	: Ames試験 陰性 染色体異常試験 陽性 : 小核試験(マウス) 陰性 微生物;サルモネラ菌(-S9) 陽性
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: F-344ラット(7週間)に飲料水として2週間投与で、0.25%以上、13週間投与では0.2%以上で、著しい体重増加抑制が見られた。(次亜塩素酸ナトリウム)
誤えん有害性	: データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	: 水生生物に有害で、LC ₅₀ /96時間は、ファッドヘッドミノー(魚類)に対し5.9mg/l、グラスシュリンプ(甲殻類)に対し52.0mg/l
滞留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし
他の有害影響	: データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄残余物	: 廃液は、そのまま廃棄すると土地、河川を汚染し、農作物、魚介類に影響を及ぼす可能性があるため、そのまま廃棄しない。 : 酸を使用して分解すると塩素ガスを発生し、大気汚染防止上好ましくないため、完全な塩素ガス吸入装置のついた密閉容器中で分解後、廃棄する。
汚染容器及び包装	: 容器は使用後、漏れや変質を防ぐため、容器の変形、内部ライニング、塗装の亀裂、剥離、残留物の有無を確認し、水洗い、水切りをしておく。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	: 1791
品名(国連輸送名)	: 次亜塩素酸塩(水溶液)
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	: 8
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 非該当
特別の安全対策	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 腐食性が強いので運搬容器及び移液設備(配管、バルブ、ポンプなど)は耐食性のあるものを使用する。 分解しやすいので、遠距離輸送は避けた方が良い。また、直射日光下の輸送は温度上昇により分解が促進されるため避ける。 酸と接触すると分解して塩素ガスを放出するので、混載は避ける。 専用容器を他の物質と共用しない。 小型容器で輸送する場合、栓のあるほうを上にして積載する。
国内規制-陸上輸送	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
国内規制-海上輸送	: 船舶法に定められている輸送方法に従う。
国内規制-航空輸送	: 航空法に定められている輸送方法に従う。

15. 適用法令

消防法	: 該当しない
労働安全衛生法	: 表示・通知該当物質に該当しない
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない

16. その他の情報

引用文献	: 1)日本化学会編「化学防災指針」、丸善(1980) 2)日本ソーダ工業会編「安全衛生手帳 1992」 3)東京連合防火協会編「危険物データブック」、丸善(1988) 4)日本ソーダ工業会編「次亜塩素酸ソーダ輸送設備取扱マニュアル」(1990) 5)古川ら、衛生試験所報告、98、62(1980) 6)ギンター・ホンメル編、新居六郎訳「危険物ハンドブック」シュプリング・フェアーク東京株式会社(1991) 7)日本食品洗浄剤衛生協会 殺菌・消毒に活躍する次亜塩素酸ナトリウム 8)日本ソーダ工業会 製品安全データシート(次亜塩素酸ソーダ) 9)日本食品添加物協会製品安全データシート(次亜塩素酸ナトリウム)
------	--

記載内容の 取扱い	: この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。 記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。尚、営業秘密である成分情報は非開示(濃度においては幅記載を含む)と記載している場合があります。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものなので特殊な手扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上、ご利用ください。
--------------	--